

世界の民俗仮面52点

豊橋・二川 岡崎の藤谷さん収集

アフリカの仮面の説明をする藤谷さん。豊橋市二川町の駒屋で



岡崎市鴨田町の藤谷幸弘さん(左)が収集した民俗仮面を並べた「甞る仮面たち」が五日、豊橋市二川町の商家「駒屋」で始まった。百一十年前に作られたとされる木製の仮面を見ることができると。十日まで。

約百八十点のコレクションのうち、アフリカやネパールなどの民俗仮面五十二点を展

がちだが、現代の自分が何を感じてどう受け止めるのかを考えることが面白いと話した。(相沢紀衣)

示。折り畳み式展示台を手作りし、三年前から各地を移動しながら展示する「モバイルミュージアム」を始め、岡崎市や横浜市で仮面の魅力を伝えてきた。京都市出身で、豊田高専の教授を務めた。建築関係の研究で世界を飛び回る傍ら、四十年以上かけて各国で仮面を集め続けた。「父が京都の伝統芸能『壬生狂言』に関わっていた。狂言面が並ぶ部屋で遊んだ記憶が原点かもしれない」と話す。地域によって仮面の特徴があり、ネパールの田舎で作られたとされる仮面は、焦げ茶色で素朴な顔立ちをしている。「どこの仮面でも、誰が使っていたかということが気になり